

## シンポジウムについて

### 【ご意見・ご要望】

別添参照。

【回答】（回答日：2020年12月21日）

（回答部署：人社未来形発信ユニット）

2020年10月24日に開催されたシンポジウムのライブ動画に関して、人社未来形発信ユニットのホームページ上に掲載された「お詫び」は、あくまで視聴者が持たれた「不快感」に対するものであり、研究活動や内容に関わるものではありません。また今回のシンポジウムを含めた研究活動や研究成果の発信も当初の予定通り続けていきます。

【No. 1】（投稿日：2020年11月11日）

京都大学文学部講義室で行われた緊縛を現代アートとして考えるシンポジウムについて、現に存在する美的表現に対する研究行為について閲覧の停止・謝罪までする必要が本当にあったのでしょうか。私自身このシンポジウムの YouTube を見させていただいたのですが、閲覧したくない人は閲覧しなくてもよいようになっていましたし特段の問題は感じませんでした。もちろん京大上層部の皆さんも深い考えのもと決断されたのですが、仮にも日本有数の学術機関である弊学が外圧に屈し「学問の自由」を委縮させるような行動を行ってしまったことを非常に残念に思うとともに、私個人としてもまだ学部生という身の上ながら現代芸術に興味を持っているのでこれからの弊学における研究活動に際して悪い影響となりえないか非常に心配しています。

【No. 2】（投稿日：2020年11月12日）

YouTube に投稿された緊縛動画の公開停止について意見があります。  
件の動画は不快感を表す意見が多く寄せられたことを理由に公開が停止されました。しかしそれを理由に公開を停止すべきではないと考えます。YouTube に投稿された動画は見たい人が見るものであり、それを見た結果不快に思うのはそれを見るという選択をした自分の責任であり、投稿者の責任ではありません。それにも関わらず不快感を表す意見の多さを理由に公開を停止するのは表現の自由の弾圧に屈する事を意味するのではないのでしょうか。